先輩たちが語る113回

国試受験者座談会 緊急

あいーん

姿勢は真摯だが努力が空回りしがちな苦労人。現役時の受験は残念な結果に終わり、捲土重来を目指す浪人生。

ぼん

声の大きさでどこにいても気づかれる関西人。要領はこの上なく良く友人にも指導者にも受けがいいが、たまに大ポカをやらかす。

たっくん

そこそこ勉強してそこそこの成績を取る、自他ともに認める「真ん中の医学生」。一人勉は寂しいので嫌だが、ガリガリ君は一人で食べたい。

なな

心優しくよく気がつき誰からも頼られる頑張り屋。時々周囲から心配されるが、本人はぜんぜん苦でないらしい。医学系にたまにいる仏分類。

喜介

表や図は一度見れば覚える。成績優秀なあまり、国試対策後半期は暇で仕方がなかったとのこと。真似しようとしてはいけないタイプ。

国試直後の受験者の本音

――皆さん、113回国試2日間お疲れ様でした！
国試の直後は毎年「簡単になった」「難しくなった」との講評に受験者が動揺するわけですけど、あえて聞こう。今年の国試はどうだった？

I（あいーん）：受験中は難しいとしか感じない！

B（ぼん）：それ言ったら元も子もないやん！（笑）

T（たっくん）：予備校とかのコメントは「簡単になった」っていうのが多かったかな。そんなことないだろって思ったけど、後から冷静になって問題を見直してみるとそうなのかな？って感じもする。

N（なな）：受験中も落ち着いて解くのが大事ってことなのかな。難しくて解けない問題があるとどんどん焦ってくるけど。

K（喜介）：差がつかない問題が多い気がしたね。簡単なのは誰でも解けそうな簡単な問題だし、難しいのは誰も解けてなさそう。極端に難化したって感じはなかったね。解ける問題を落とさないことが重要。

I：君は余裕でいいね…（泣）

科目別分析

――科目別の傾向としては？

T：輸液とか術後管理とか食事療法とか、今後の患者さんがどうすべきかとか、研修医になった後に実際に対応しなきゃいけないような問題は今年も多かった。正直、苦手…。

N：あと妊婦さんがらみの問題、多い！産科じゃない領域でも、妊婦禁忌の薬剤を知ってないと禁忌肢踏むような問題。

K：いきなりA問題の最初のほうに来てたね。皮膚科で尋常性乾癬の妊婦さんにビタミンA禁忌（113A8）。

B：産科自体も問題数が増えとった。婦人科は変わらへんかった。

I：麻酔は1問だった。ちゃんと対策した僕の時間は一体…。

K：産科が増えた分の影響なのか、小児科が減ってた。

N：耳鼻科は人工内耳とか永久気管孔とかの画像で問われてて、難しい！って感じたな。精神科は楽だった。

K：研修医でもここまでは知っておけよ、みたいなところを特に問われてた気がする。

T：そういえば、多選択肢問題が112回で消えたのに、113回で復活してた！CとFの最後！

B：Fのショックの問題は割れとったね（113F83）。最終日の最後のほうで意識朦朧とするし、解けへんかった。ええけど。

N：よくない！（笑）

●リンクから実際の出題問題をQBオンラインですぐ確認できる、座談会の続きはWebで！